

芳樂



樂亭

二世樂亭西馬謹白

賀詞号

むししくは漢柄河帝の燈に花撫子
光媪と河段一洗濯中と被桃若帝が
お伽子紙小想文几の初登山寺子朋友の
假名恒々人余は勤修て道に侍僕
此哉舞の弓腰るを相續あて為す
舊衣をも洗濯くは実まよ
薪水の功山崎の奥秘をも
你く君とと踏次の技おふ
青標史一巻とてはも僕ぬ
才の未口唄も黄表紙と含意
面貌も赤中法今更難子の頭使は速懐く
あつね業ありと固辭およりあふ兼修て
大骨おつ人も人並よ三本足くぬ哉化の
徳智恵拙工所もよるにえさうく
日本一の奇味候と法貴教ありあり
隠簾笠打出の小櫃三心の宝物の
恵極はるる立成がふにん
めと世は流のやふあつらんせ
阿つひまうくくぬひつらんせ

久しうとや字りある厚も友次身かう以
中よりあの中もゆる中のおもきう風 庄水

弓とつれ手も継をのや菊もさあ梅園
冬も雪のたけ月まの雪ころろ 玄魚

おとよと、羽風あつうー後る厚 喜水
つのはる月の上ありつ子縄 有人
むししく阿つて秋もあふの月 尊文

幸あめ茶月

2-1-28 8020-50